

施設・活動紹介

医療法人社団永生会 永生クリニック

高次脳機能障がい 就労支援プログラム「丸八工房」

【開始の経緯】

当施設は退院後の外来リハビリテーションの機能を担う診療所である。若年での高次脳機能障がいをもつ方が多数来院している。就労へつなげるためには、社会性・礼節が保たれ、適切な社会交流が行えること、自身の障害を理解した上で適切な代償手段が使用できることが必要である。しかし、病識や社会性などはセラピストとの個別のリハビリテーションだけでは改善が難しい点があるという現状があった。そこで、当施設では平成 22 年 8 月より高次脳機能障がい者の就労支援プログラムを開始することとした。

【活動概要】

1. 実施日

毎週土曜日の午前中 2.5 時間 (9:30~12:00)

2. 対象者数 (平成 23 年 2 月現在)

4 名 (定期参加者 2 名、不定期参加者 2 名)

3. 運営スタッフ

2 名 (言語聴覚士 1 名、作業療法士 1 名)

4. プログラム内容

1) メモリーノートの利用

記憶の代償手段、メモ取りの練習、一週間の行動のプランニングなどを目的とし、一週間の日中の様子を報告しあうことで、生活状況の確認ツールとして活用する。

2) 作業活動

代償手段の活用、自己の苦手な点や持久力の認識などを目的とし、仕事に模した責任ある作業活動を行い、作業量と失敗数を記載・報告する。

3) グループセッション

① 羅心版 (集団問題解決訓練)

自己の病態を視認化し、目標とそれに対する達成可能性の高い具体的な方策を意見しあう。

② 勉強会

高次脳機能障がいに対する一般的な症状などの講義と話し合いを通じて、自己理解を深めてもらう。

5. 活動実績

再就職 : 1 名 (プログラム参加後 6 か月)

【今後の方針】

開始から 7 か月が経過した。今後の方針として、下記の内容の充実を図ることが期待されている。

1. プログラム内容の充実化

生活スタイルを再構築するためのメモリーノートの活用方法の検討と、作業活動の充実化や、グループセッションでの自己理解の向上と補償手段の獲得方法の検討が必要である。

2. 家族支援

対象者のキーパーソンとなる方の高次脳機能障がいへの理解を深めていただくことや、目標管理の共有化のためにグループセッションの参加や、家族支援プログラムを構築していく必要がある。

3. 他機関との連携

実際に就労支援につなげていくために、他の就労支援機関との連携を図っていく必要がある。